

開講科目名／Course	成人看護援助論Ⅳ（終末期）	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 3 学期／Third	
開講区分／semester offered	3 学期／Third	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	3	
主担当教員／Main Instructor	古賀 雄二	
担当教員名／Instructor	佐藤 栄治、古賀 雄二、岩下 恵子、井上 陽士	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	成人期において死を迎えつつある人や家族への理解を深め、その人らしい生活を全うできるような支援を行うための看護について学習する。また、終末期医療における倫理的諸問題を理解し、人間の生死について自己の価値観への理解（自己理解）を深め、他者の価値観（その人らしさ）を尊重する態度（他者理解）と看護のあり方を学ぶことができる。	
到達目標	1. 成人の終末期医療に関する概念と保健医療システムや社会資源について説明できる。 2. 終末期ケアの現状について説明できる。 3. 終末期にある成人患者とその家族が体験するトータルペイン（身体的・精神的・社会的・霊的な苦痛）の概念と倫理的諸問題を説明できる。 4. 死に向かう成人と家族の心理過程と悲嘆プロセス、死別後の家族の悲嘆プロセスについて説明できる。 5. 死に向かう成人と家族の意思決定プロセスと意思決定支援について説明できる。 6. 緩和ケア医療におけるチーム医療と看護の役割を述べるができる。 7. 終末期に出現する症状と症状緩和の方法について説明できる。 8. 終末期における医療者ケアについて説明できる。 9. 学習のプロセスを通して、望ましい終末期について自分の考えを説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 成人の終末期医療に関する概念 02. 成人の終末期医療に関する理論 03. 成人の終末期をとりまく保健医療システムや社会資源 04. 終末期を迎える成人患者への看護：症状マネジメント、臨死期のケア 05. 終末期を迎える成人患者と家族への看護：緩和ケアにおける倫理的課題、意思決定支援、ACPとチームアプローチ、遺族ケア 06. 終末期を迎える成人患者を看取る医療者への支援 07. 終末期ケアの実践① 08. 終末期ケアの実践②事例検討	
その他の授業の工夫	外部講師を招聘するなど、臨床事例から看護実践の意味付けや重要性の再認識につながるように工夫している。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料や教科書を用いて予習する（10h）。 事後学修：配布資料を用いて復習する（12h）。	
評価方法と評価割合	レポート100%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]（最新版）（医学書院） 系統看護学講座 別巻 がん看護学（最新版）（医学書院） 系統看護学講座 別巻 緩和ケア（最新版）（医学書院）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他	必要に応じ、ハンドアウトを提示する。	
教員の実務経験	有・無	無
	内容	古賀雄二：病院の看護師 佐藤栄治：病院の看護師 岩下恵子：病院の看護師 井上陽士：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	対象者への看護実践の経験を活かし、学生の興味関心が高まるように看護と関連づけた事例紹介を取り入れ講義を行う。	